

国際セミナー  
「森林の強靱性」を支える基盤としての「土壌」  
—森林に関する基準・指標を通して見えるもの—

共同ファシリテーター・サマリー(仮訳)

1. 事例発表

a) 森林と土壌

- i. 森林の強靱性の基盤となる保全機能は、主に土壌及び水資源の役割と機能を特定することにより説明が可能となる。
- ii. セミナーの事例発表は、土壌及び水資源のモニタリングを通じて、モンリオール・プロセス参加国が、地域社会の生計維持のために、如何に劣化した森林を回復させ、保全的機能及び付随するサービスを測定することに挑戦してきたかを説明してくれた。

b) 今後に向けて

- i. 参加各国において、土壌の状態に関する効率的かつ信頼できるモニタリング手法は、依然として挑戦であり、更なる改良・開発が必要とされている。
- ii. 土壌とその他の森林の多面的機能との間の相互作用については、参加各国にて蓄積されつつある国家森林資源モニタリング調査のデータを活用した人工林での多様な施業が土壌に与える影響分析等を含む更なる分析が必要である。

2. ミレニアム開発目標(SDGs)及びポスト2015年開発アジェンダ

- a) 森林は、特に外部からのインパクトに対する強靱性の観点から、SDGsの達成に多大な貢献が可能である。
- b) 特に、自然災害に対する防災・減災に関連する地域コミュニティの強靱性は、森林セクターがSDGs及びポスト2015年開発アジェンダの達成に貢献する重要な課題である。
- c) 森林に直接関連するゴール6<sup>1</sup>及び15<sup>2</sup>の下々の4つのターゲットに加えて、森林の強靱性は、ゴール1<sup>3</sup>、2<sup>4</sup>、9<sup>5</sup>、11<sup>6</sup>、13<sup>7</sup>及び14<sup>8</sup>の達成にも貢献するものである。
- d) 森林の基準・指標に基づくモニタリング、評価及び報告(MAR)は、それら直接的及び間接的に関連するターゲットのための定量的な指標を提供出来る。

<sup>1</sup> 全ての水と衛生の利用及び持続可能な経営の確保

<sup>2</sup> 陸域生態系の保護、回復及び持続可能な利用、持続可能な森林経営、砂漠化対処、及び土地劣化の防止及び反転と生物多様性の損失防止

<sup>3</sup> 全ての形態と全ての場所での貧困の撲滅

<sup>4</sup> 飢餓の撲滅、食の安全保障の達成、栄養の改善、持続可能な農業の促進

<sup>5</sup> 強靱性施設の構築、包括的で持続可能な産業化、森林のイノベーションの促進

<sup>6</sup> 都市と人類居住の安全、強靱性、持続可能性を包括的に捉える事

<sup>7</sup> 気候変動及びその影響に対処するための緊急行動を取る事

<sup>8</sup> 海洋資源の保全と持続可能な利用

3. 2015 年以降の森林に関する国際的な措置(IAF) (将来の UNFF 含む)
  - a) 持続可能な森林経営を実施するための将来のいかなる IAF における MAR の重要性は、UNFF 第 11 回会合の決議において強調され、確認されるべきである。モントリオール・プロセスは、将来の UNFF の下の「Global forest indicators partnership/platform」の概念について、UNFF 第 11 回会合会期中にその他のパートナーとその考えを共有するため、コンセプトペーパーを作成するべきである。
  
4. 世界林業会議
  - a) 世界林業会議のモントリオール・プロセス及び FRA2015 の各イベントにおいて発表される予定のモントリオール・プロセス参加 12 カ国による第 3 次概観報告書は、SDGs 及びポスト 2015 年開発アジェンダのような国際フォーラムに対して、強いメッセージを提供することが期待されている。
  - b) 森林の強靱性の構成要素としての土壌及び水資源の役割は、この概観報告書において強調されるべきである。